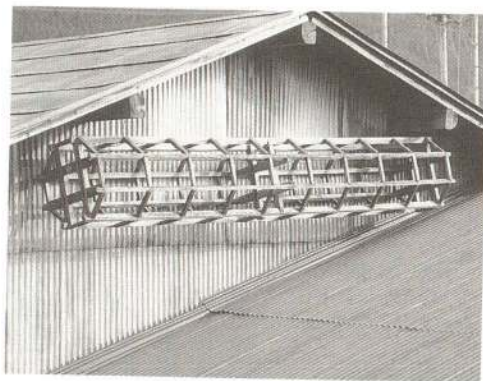




ふるさと大館へ

—大館ふるさと会からのたより—

第一回 会長 竹村堅次さん

(医 師)

これはなに?

『ゴロ』

野山の雪も解け、すっかり春らしくなりました。もうじき桜が咲き、田植えの季節がやってきますね。

「ゴロ」と呼ばれるこの道具は、昔、まだ苗を手植えするのが主流だったころによく見られた物。整地して水を張った田にゴロを入れ、転がすと、田に碁盤の目のような型が描かれます。その交点に苗を植えていけばきれいに田植えができる仕組みになっているのです。

家族総出で田植え作業をしていた昔は、田の中で苗を植え付ける大人へ、子供たちが苗の束を投げわたす光景がよく見られたものですが、機械植えが主流になった現在では、そんな光景もほとんど見られなくなりました。



昨年十一月六日、お茶の水の全電通ホールで盛大に発会した大館ふるさと会。去る三月十日にはお茶の水「聚楽」へ十六名が参集して本年度第一回の役員会を開催しました。大館市からは観光物産課係長が上京し、なつかしいふるさととの近況を盛り沢山に話してくれました。一同遠い故郷に思いを馳せ、和気あいあいのうちに第二回総会の準備、打ち合わせに入ることができました。

乳井昭陽事務局長が用意した資料と菅原弘志幹事長の菌切れよい司会のおかげで役員会は順調に進行し、第二回総会は来る十一月十二日(日)、江東区東陽町の「ホテル・イースト21東京」を会場に、各種の企画を盛り込んで賑やかに開催しようということで意見が一致。現在、総会への大勢の出席をお勧めすべく、郷土物産展をはじめとした様々な案を練っています。当会は「ふるさと応援団」という趣旨で発足したのですから、地元の方々が今何を望んでいるのかを知り、また、大館市が抱える問題の掘り起こしを呼び掛けていただくことも大切だと思っています。東京では時々同郷人が集まり、楽しく愉快に語り合いますが、大館市とその周辺地域の話題は尽きることがありません。

※次回からは四人の副会長が順次登場します。

大館の方言講座

大館的な言葉

言葉を聞いて「大館地方の人だな」とすぐ判断できる材料として、単独では意味を持たないが言葉の後先に付いて機能する「助詞」や「接頭・接尾語」がある。種類は少ないが、状況に応じて語調を変え、実に多様な使い分けをする。このため、転入者が大館の言葉になじむには数年を要するといわれる。また、大館出身者が東京の言葉を身に付けると、とっさの際にこれらの表現を東京の言葉に混ぜた、奇妙な造語を発する傾向がある。

『大館市史』から

中央図書館の休館日

毎月第1金曜日 14時30分
4月16日、27日、29日

親子読みきかせ会

4月のテーマ関連図書コーナー

『園芸』

児童書
◇ちようちんまつり(唐亜明) ◇ねずみの歯いしやさんアフリカへいく(ウィリアム・スタイグ) ◇森のネズミのおわかれ会(岡野薫子) ◇ぎゅつぎゅつぎゅつとだつこして(山下明生) ◇なん者ひなた丸空蟬おとしの術の巻(斎藤洋) ◇目だまし手品(アーリーン・ボーム) ◇一ねんくみ一ばんやるき(後藤竜二) ほか

一般書
の棲む台地(コナン・ドイル) ◇処刑室(ジョン・グリシャム) ◇ダニエル・キイス読本(早川書房編集部) ◇トルキン指輪物語事典(デビッド・デイ) ◇サンダーポイントの雷鳴(ジャック・ヒギンズ) ◇ミニラン(新井清彦) ◇徳川吉宗一〇一の謎(中江克己) ◇手塚治虫とともに(手塚悦子) ほか



『DNAとの対話』

ロバート・ボラック 著 早川書房

遺伝子の本体を成すDNAは、私たちの身体の細胞すべての働きをつかさどっている。その巧妙な生命社会は、まるで人間社会のように見える。DNAとの対話を通じて、生命と人間社会の本質に迫る。

◇首人形(早坂暁) ◇家族場面(筒井康隆) ◇こちら駅前探偵局(ねじめ正一) ◇強力伝(新田次郎) ◇天狗藤吉郎(上・下) (山田智彦) ◇悪魔

私の本棚

中央図書館新着図書

ロバート・ボラック 著 早川書房